

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者	
凝固止血検査学実習	2年次	必修	実習	1単位（45時間）	五十嵐 康之 ※	
授 業 概 要						
自動分析機を併用しながら、凝固系の検査の測定原理と臨床的意義を理解する。また、用手法をもとに検査機器の原理と検査所見から疾患を類推できる。						
到 達 目 標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用手法から基本技術をマスターする。</li> <li>・自動分析機の操作法の理解と用手法との結果比較により手技の技能判定ができる。</li> <li>・結果を正しく判定できる。</li> <li>・各種検査の理論及び臨床的意義を説明できる。</li> <li>・検査の基準値を列挙できる。</li> <li>・検査結果から疾患を類推できる。</li> </ul>						
実務経験のある教員						
五十嵐 康之、星野 ちなみ：受託臨床検査施設及び病院での臨床経験を踏まえ、凝固検査の臨床的意義と自動分析機を用いた測定原理とデータ解析技術を概説する。						
回	学 習 内 容				担当教員	
1-4	全血凝固時間：Lee White 法				五十嵐 康之 ※ 星野 ちなみ ※	
	カルシウム再加時間					
5-8	プロトロンビン時間（PT）					
	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）					
9-12	クロスミキシング試験					
13	出血時間：Duke 法					
14	毛細血管抵抗試験：陽圧法					
15-16	フィブリノゲン定量試験：トロンビン時間法					
17-18	血小板凝集能試験：Born 法					
19	FDP 定性試験：ラテックス凝集法					
20-23	凝固第Ⅷ因子活性測定、凝固制御因子（AT）活性測定					
学 習 方 法						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書及び配付資料をもとに復習をすることでより理解できる。</li> <li>・測定結果の分析（考察）するためには、実習内容や臨床的意義をしっかりと理解すること。</li> <li>・不明な点は次回にせず、速やかに解決すること。</li> </ul>						
評 価 方 法						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習試験等（60%）及びレポート（40%）により評価する。</li> <li>・レポートは評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。</li> <li>・再試験は実習試験のみ行い、レポート評価と合わせて再評価する。</li> <li>・やむを得ない事由による欠席の場合は、補習実習を行う。</li> </ul>						
先 修 科 目						
教科書、参考書						
〔教科書〕						
最新臨床検査学講座 血液検査学 第2版		奈良信雄 他	医歯薬出版			
ビジュアル臨床血液形態学 第4版		平野正美 他	南光堂			
病気がみえる vol.5 血液 第2版		土屋達行 他	MEDIC MEDIA			